

研究可能テーマ

研究可能テーマ	研究指導者	受け入れ可能院生数
(1) IgG4関連疾患：ミクリッツ病およびキュットナー腫瘍について* IgG4関連疾患である、いわゆるミクリッツ病やキュットナー腫瘍について、組織像、IgG4陽性細胞の検討と合併疾患との関連性について検討する。		1
(2) 口腔乾燥症と味覚障害* シェーグレン症候群をはじめとする口腔乾燥症について、その病態解明と治療法について検討する。唾液腺内視鏡にて唾液腺管内の構造変化について検討を行う。また、味覚障害との関連性について検討を行う。		1
(3) 唾液腺腫瘍* 耳下腺腫瘍の検査、手術、病理について深く学ぶ。多形線種由来癌について多形腺腫の悪性転化の病態・機序について検討する。ワルチン腫瘍のNISについての検討を行う。		1
(4) 難治性疾患の病院究明と治療法* 軟部好酸球肉芽腫瘍（木村病）や唾液腺症など難治性疾患の原因究明と治療法についての研究を行う。		1
(5) 平衡機能* 平衡機能検査と各疾患における解釈。メニエール病、前庭神経炎、良性発作性めまいの病態と鑑別診断や治療法を検討する。	山村講師	1
(6) 好酸球性副鼻腔炎* 近年増加している、新しい型の副鼻腔炎を好酸球性副鼻腔炎という。喘息との関連を含めた病態解明を行い、内視鏡下鼻内手術を含めた、治療指針を作成する。	野中准教授	1
(7) 好酸球性中耳炎* 好酸球性中耳炎研究グループの1人として診療基準を作成した。軽症から重症までの病態の違いの研究と、重症度に応じた治療を考案する。	野中准教授	1
(8) アレルギー性鼻炎病態形成における鼻粘膜上皮層の役割について* アレルギー性鼻炎の病態形成には、鼻粘膜上皮層は重要な働きをしている。Nasal brushingの手法を用い、次世代シーケンサーという最近の機器にて、上皮層でのゲノム全域にわたる解析や新規発現産物の検索を行う。	野中准教授	1
(9) 鼻副鼻腔線維芽細胞の特殊性と副鼻腔炎病態形成における役割の解明* 近年、線維芽細胞は自然免疫や獲得免疫に深く関わっていることが分かっている。特に最近では慢性副鼻腔炎の病態形成に重要な様々のtoll like receptorsに反応することを解明した。現在は、人の複雑な生体反応に重要なnon coding RNAの、鼻副鼻腔線維芽細胞における発現を検討している。	野中准教授	1

*：医師免許取得者 対象